

## 鷺尾勘解治翁

平成24年9月8日（土）10:00～11:30

元別子銅山文化遺産課長 坪井利一郎

### 1. はじめに

上下円融を常に思い、別子銅山の鉱脈が尽きた後も地方が栄える「地方後栄の方策」を住友精神として「報恩」の念から考え、住友と地方の共存共栄のまちづくりを実行し、今日の新居浜市の発展の基礎を確立したのは鷺尾勘解治である。新居浜地方の興隆発展に寄与した鷺尾の伝記である「鷺尾勘解治翁」を解説する。

### 2. 本の刊行

昭和27年 2月12日～19日

岡山県三石町に出向き合田正良が口述筆記し、署名捺印を得る。

「鷺尾勘解治先生新居浜の回想録」

その後、合田正良は執筆のために取材に奔走する。

昭和29年 8月15日 発行

新居浜市発行になっていたが、燧洋倶楽部に訂正。

※燧洋倶楽部は、合田正良が賛同者と鷺尾勘解治後援会を設立したが、援助的な名称なので改めた名称である。昭和33年11月に元塚に自彊舎建設。白寿を記念して昭和54年8月に宗像神社境内に「鷺尾勘解治先生頌徳の碑」を燧洋倶楽部会員、益友会員で建立した。

### 3. 本の構成

表紙

肖像写真 昭和9年6月、神戸における翁

発刊の辞 新居浜市長 白石捷一

序 小倉正恒翁・安岡正篤・香坂昌康・川田順・後藤文夫・町田辰次郎

目次

本文 69項目142ページ、合田正良誌す

逸話集 44人、110ページ

先輩知人の書簡 33通 25ページ

### 4. 鷺尾勘解治に関する本・小冊子

鷺尾勘解治先生新居浜の回想録 合田正良 昭和27年 2月

私の考えた新居浜の将来 鷺尾勘解治 昭和30年ころ

私の考えた新居浜の将来 鷺尾勘解治 昭和52年11月 3日

鷺尾勘解治と自疆舎精神	瀬岡 誠	昭和54年
鷺尾勘解治自伝	鷺尾勘解治 (片山修・編集)	昭和56年 5月25日
評伝・鷺尾勘解治翁	左合藤三郎 (益友)	昭和57年 3月
黙翁・鷺尾勘解治	(社)自疆舎記念会 (片山修・編纂)	昭和62年 4月13日
黙翁・鷺尾勘解治に学ぶ	にいほま市政だより	平成12年12月 1日
鷺尾勘解治の経営理念	山本通 (神奈川大学商経論叢 37-4)	平成13年12月
評伝・鷺尾勘解治翁	左合藤三郎 (益友)	平成23年12月から再掲
鷺尾勘解治翁略伝	私本資料	

## 5. 記載の概略

### P001 おいたち・白川時代～

明治14年4月10日、兵庫県武庫郡須磨村白川の鷺尾弥三郎の長男として生まれた。山伏神社の社家で農業もしていた。

明治25年、11歳のときに父が県社七宮神社の社司になったので神戸市兵庫の北宮内町に転居する。

明治29年に神戸県立第一中学校に進学する。

明治34年に熊本第五高等学校に進学する。

明治35年に見性寺の西山通応禅師に師事する。

明治37年に京都大学法学部に進学する。大徳寺芳春院の菅<sup>すが</sup>広州老師に師事。

### P023 老師の尊い教え

入院の前日に老師は、入院中に他人に下帯を洗ってもらうのは心苦しいからといって、庭前の池に下りて洗濯する。

(下帯とは禪である。)

### P024 大学卒業と住友への入社

あまり就職活動をしていなかったのも、「住友の鈴木総理事にたのんでやる」と広州老師が就職を斡旋してくれる中で、別子銅山の暴動についての考えを問われて、「上下円融の実が上っていないから」と答えた。

### P025 老師の手紙を携えて鈴木邸訪問

鈴木邸訪問で住友採用の言葉があつて、入社後に別子鋳業所行くことを言い渡された。広州老師が入院中なので、老師退院後まで赴任延期を申し入れると承諾された。

### P026 別子鋳業所赴任

老師の49日を済ませて明治40年10月19日に別子鋳業所に赴任する。所長の中田錦吉は書記室勤務を命じ、自宅に同居させた。中田は第一印象にて、人

となりを認めて将来に期待した。

P026 別子にきての印象

広州老師が「別子に行ったら、よく下情を調べて働く者の立場を理解して労資協調の実を挙げ共存共栄をはかれ」と諭したが、別子の状況はその反対であった。上下円融の実を上げねばと決意する。

P027 生野銀山に赴いて坑夫修業

現場実態にふれ、働く者の立場を認識しない経営はうまくいかないと考えて、2ヶ月の休暇をとって生野銀山の坑夫なる。

P028 いよいよ坑夫生活に・生野銀山を後にして

掌に豆を作りながら50日あまり坑夫体験に励む。働いた賃金を飯場の大将に預けて暇を取る。大阪の鈴木総理事に報告して別子に帰る。

P029 坑夫になることが許されて

中田所長に生野銀山での坑内生活体験を話して、坑内勤務を懇願して許される。最初は白眼視されたが、黙々と働く姿に同僚として受け入れられる。坑内の雰囲気も良くなり、不正もなくなった。待遇改善もしたので採鉱量も増加した。上下円融の大切さを体験する。

P031 結婚

明治43年、29歳で郷里の西岡清三郎の娘・<sup>りょう</sup>良と結婚する。

住友入社から辞任までの辞令

P034 明治40年10月8日、試験雇を命ず。

.....

P048 昭和8年12月21日、依願解雇す。

P049 愛剣のさとし

菅広州和尚は、大学卒業記念に愛蔵の剣を一振り贈り、「自らの身を守り、魂を守るもの」と諭した。

[単なる就職祝いの品ではない。毅然とした判断の教えである。後の労務管理に正義と邪悪の判定として如実に出る。]

P051 家族状況

実母・幾は勘解治とトウを生んで37歳で亡くなった。勘解治17歳のときであった。その後は義母・キクに育てられた。父は大正10年に67歳で亡くなる。勘解治には子がなかったため、甥の<sup>やすし</sup>寧を生後3ヶ月で養子とした。

P053 別子の山に青年の塾を

文化の恩恵に浴することの乏しい青年の別子山での生活を憂い、明治45年に上司の許可を得て、風呂屋谷に舎屋を借りて塾を開く。鈴木総理事に頼んで「自

疆舎」と命名してもらった。最初は幻燈を見せ、菓子を十分に与えて塾生を集めた。時を見計らっていろいろな話を聞かせた。山に生気がみなぎってきた。

[明治45年開設は、正しくは大正元年8月開設。]

[自疆舎：易経の天行健君子以自疆不息。君子はもって自ら疆めて息まず。天地の運行がすこやかであるように、君子も自ら努めて励み、怠ることはない。]

P054 近隣の家を辿って

家々を巡って勤儉貯蓄を説き、清潔整頓を説き、怠惰を戒め勤勉力行を奨励した。

P054 鈴木総理事より塾の経営資金を借る

経費は私費以外になかったので困窮し、鈴木総理事に500円を資金として借り入れた。これを聞いて久保無二雄・所長は100円を寄付してくれた。鈴木総理事からの500円は住友家から表彰されたときの賞金で返済した。

P055 過労が原因して病床に

昼は坑内に働き、夜は塾長として青年の教育に努め、また生活改善運動にも努めたため、過労が原因で病床に伏した。

P056 福岡に転地療養・病気回復と新居浜勤務

根本治療を希望して福岡の療養所に行く。回復して新居浜に帰ってきたが、体的に坑内勤務は無理で設計係に就いた。

P056 四坂島荷揚設備の機械化による人員整理を承る・いよいよ四坂島に

人手作業をクレーンにしたので数千人の労働者が不要になり、その処理に大平所長は苦慮していた。勘解治は、その人員整理の役目を買って出る。

不要になったから無条件で退職させるのは道義に反する考えから、未だ官庁、会社でも事例のない退職金を支払う考えを決めた。

(当初の表記の四坂島で書かれているので「坂」表記とする。)

P058 円満裡に人員整理を了る

当分の間困らないだけの退職金を出すとともに、人員整理のいきさつを説明したので円満に解決した。大平所長の信頼を得る。

P058 労働課長に起用されて

大正10年秋、大平所長から労働課を組織するように内命を受け、大正11年1月に労働課を組織し課長に起用される。

P059 労働課組織の根本方針

労働課の目的は労働問題の処理であるが、根本方針として労資の協調に置き、上下円融を図ることとした。

P060 親友会を組織して

大正11年頃、労資の委員会設置が取りざたされるようになり、大平所長から勘解治に原案作成が命じられ、親友会を組織する。「鉦夫交際所」、「互救部」、「俱

楽部」の設置、春の相撲、秋の大運動会を開催、人事係の配置などを行い、目的の労資の意思疎通、福祉増進、共存共栄が図られた。

P061 川口新田に大山祇神社を

大正4年秋、全山の労働者を大山祇神社に集め、別子撤退奉告祭を執り行い、大山祇神社にも近々お迎えに参上すると誓約して、秩序正しく山を下りる。

労働課長に就くや、川口新田に大山祇神社を迎え、蘭塔場と小足谷の墓地も瑞応寺に移した。

P062 別子の労働争議と鷲尾翁

労働組合は近代産業制度として英国におこったものであるが、産業発展に伴って労働者の幸福追求を図るものとして国家が認めて生まれたのが労働組合法と罷業権である。勘解治は、国家社会の秩序を維持し、発展を阻害しない範囲内での制限あるものが正しいと考えた。

P063 大正12年頃の世界情勢

第一次世界大戦後は、社会主義思想が世界に拡がり、インフレが進んだ。日本は戦争成金になってふところを肥やした。日本の労働運動は社会主義の波を咀嚼することなく鵜呑みにして民主主義的でなく極端な形で行われた。勘解治は英国の労資協調路線と上下円融を同一視していた。非道徳的行為を戒め、反社会的行為を排除した。

P065 労資協調の考え方

すべての事業は、労資共同の利益を図るために協調して経営すべきである。正当な働きによって得た財宝は尊く、永遠に栄え滅ばないが、不正な利益は自己を毒し消滅させ、子孫にも禍を及ぼす。不当な要求を受け入れて現金を渡して解決するのは、会社の採るべき方法でないとの信念であった。

P066 別子の労働運動とその経過・会社側の足並み揃わず

労資協調、共存共栄の考えが労働者に反映し、別子の労働事情は良好であった。しかし、全国各地で労働争議がおこる風潮から別子も平穏でなくなっていた。

会社においては、採鉱課と労働課の方針が一致しなかった。

P067 採鉱課長兼任を命じられる

大正13年12月20日を期して、岡田所長は勘解治を採鉱課長兼任とし、労働問題の解決を命じた。勘解治は理由なきものは拒み、正当と思うものは受け入れた。組合から飯場制度の廃止要求が出された。

P068 会社の処理・会社のこれに対する処理

会社は飯場制度を廃止した。組合からは、安米制度特価米制度を撤廃し本番賃金に繰り入れる要求が出された。

労働者を保護する制度であることを説明したが、聞き入れられず撤廃した。

P069 いよいよストライキへ突入

会社は要求を受け入れてきたが、組合は勝ち誇って次々と要求してきた。組合は西尾末広、加藤勘十などの指揮により賃上げ等の要求を続けた。ついに水路破壊の暴挙に出たので、勘解治は暴挙を排撃した。

組合側は大阪に乗り込み、病気であった家長宅に乱入する事態を引き起こした。その後住友本社、労資協調会、県庁が調停妥協を勧告してきたが、勘解治は労働者を愛すればこそ正しいと信じる主張を譲らなかった。筋の通った正論に指揮者たちも手を下せなかった。

P070 川田順氏の書いた住友回想記抄

住友回想記抄に「大争議の時、西尾末広らが応援に来たが、驚くような驚尾ではなかった。家に押しかけて来ても平気で臨済録を読んでいた。峩山和尚の心友の伊庭貞剛と広州老師の法弟の驚尾勘解治とちよいと似たところがあったらしい。4ヶ月の争議も組合側は何も得るところがなかった。驚尾は労働者を可愛がり常に彼らの味方であった。驚尾が弾圧したのは、組合側の要求に無理があり、暴力の争議手段に勝利はなかった。」と書いている。

真に労働者を愛したことで、決して弾圧したものではなかった。

(鈴木・小倉の修養団運動の禅と伊庭・驚尾の自己鍛錬の禅は違う。)

P072 坑夫頭との懇談・東平娯楽場に於ける懇談

大正14年12月15日、東平に登って接待館で数10人の坑夫頭たちに争議の正邪を問うた。坑夫頭たちは勘解治の本心に心が動き円満解決を決意する。

続いて接待館で300人の坑夫たちと話し合い4ヶ月間血眼になって騒いだ男たちも会社の立場を理解するようになり、愛媛県知事の調停で解決する。

P073 改善会の成立・秩序の回復のために

住友家も財を蔵するものとして進んで国家社会のために活用すべきであるとの考えから、事業を営んでいる次第である。

人間の道で最も大切なことは善行である。すなわち共存共栄推譲報徳の行為をさす。共存共栄の高き理想は、住友家事業経営の確固たる不動の大綱である。

資本家の責務として、労働者を有為の人物に育て、自己を利し、国家を利さねばならない。また、労働者の働きに対して自愛心と誠意でもって報いなければならない。よって労資一体共存共栄の実を挙げねばならないと勘解治は念願する。

大争議も大正15年2月17日に解決したが、人倫の道は乱れ、道義秩序は地に墜ちた。会社はその善後策に苦慮する中、勘解治は改善会を組織することにした。風俗を改善するために、修身齋家、生活改善、清潔整頓、勤儉貯蓄などを説いて徹底させた。

P076 美しい作務の精神

作務という言葉は、中国の百丈禅師が「一日作さざれば、一日食わず」と言ったことから出たもので、大自然と社会の恩恵に感謝して自ら勤め、自ら道を守つ

て、何の不平も不満もなく、喜んで社会のため、人のために奉仕し善行をなすことをいう。自彊舎の塾生にも教えた。

川口新田に大山祇神社が営造され、奉納相撲をするために相撲場を作る途中で近所の労働者が集まって奉仕作業をしたのが、作務の始まりである。その後日曜日ごとに作務をすることとした。度毎に人数が増えていった。相撲場も観覧席も作務で完成した。続いて400メートルトラックの大運動場も角野小学校の校地拡張も作務で作られた。

星越山の切り取り作業も作務で開始された。土は山田社宅敷地の土に用いられ、道路においても星越・昭和橋間、昭和通りの盛り土も作務で行われた。

P078 相撲と大運動会

大山祇神社の5月1日、2日、3日の大祭には、前庭につくられた相撲場で従業員の力士が演技を競った。大運動場では11月3日に住友各社の従業員の選手が出て、一大競技が行われた。

P082 自彊舎の変遷・再び自彊舎生まる

自彊舎は明治45年に別子山の風呂屋谷において創始し、大正4年まで続したが、別子山撤退に伴い、東平に移る。勘解治の病気で一時閉鎖され、大正8年に勘解治の新居浜勤務で中絶する。

大正15年11月に川口新田の楠樹の中に自彊舎が建設され、労働課が経営することになる。昭和4年7月1日から実業自習学校が併設される。ここで学んだ中から中堅幹部が誕生していった。

(退職後の勘解治を見ても、経営者というよりも実践的教育者であった。)

P085 地方の民風作興

勘解治は、会社内部では自彊舎、改善会、親友会によって共存共栄の心を養った。さらに進んで地方と会社が共存共栄の実を挙げねばならないと考えた。事業発展の3要素は、「交通の至便なること、電源の豊富なること、地方の民風の美しいこと」を力説していた。

P086 住宅地選定の考え方

事業の発展を望むには、従業員の心を清浄にするために居住環境を快適にし、生活環境を美化する必要があると考えた。宅地を選ぶには土地が高爽で排水の良い所を選定すべきと考えた。地方の発展を考え、最大潮位を測定して住友病院前の道路、昭和通りの高さを決めた。

P087 話せばわかる

人間は話し合うことで理解ができ、上下円融ができる。国際問題や労働問題が暴力で解決する状況を残念に思った。実力行使前に手をつなぐには人間として教養を積むべきであると考えであった。

P078 山田の住宅地はかくして

山と山の間の窪地で、泥田が続き、山鳥、狐、狸などの住処の山田に職員住宅を建設すると発表したのも、職員からは非常識と痛烈な非難がなされた。勘解治は一切気にせずに建設を進めた。

尾鉾で埋め立て、作務で星越山の赤土を数尺張り付けて整然と区画し、排水も良くした。南向きに文化住宅を建て、庭木を植えて潤いを添えた。今では新居浜一の文化住宅地域と憧れをもたれるようになった。

P089 川口新田社宅

自彊舎[昭和元年開設]、大山祇神社、相撲場、大運動場、販売所、浴場などの文化施設の揃った川口新田に、土地買収で困難な問題があったが、数百戸の労働者住宅を苦心の末に建設した。工場や事業所から離れていても、土地が高爽で快適で、なお通勤に至便といった要素を備えた場所に社宅を考えた。

P090 地方問題翁の考え

従来、地方と住友との関係は円満ではなかった。住友側は無理を言われても鉾山を背負って移転もできないので、泣く泣く要求を受け入れていた。しかし、勘解治は常に誠意をもって地方繁栄の途を計画実行した。町長の白石誉二郎は、会社の方針を理解して協力を惜しまなかった。

P090 煙害問題の解決

明治41年、四坂島に煙害問題が起り、井沢知事の調停で昭和14年に解決した。この間11回の協議会が開かれた。勘解治は昭和3年の第7回、昭和5年の第8回の煙害問題協議会に代表として臨んだ。知事は正義と信念にたち、鈴木総理事も正義と責任にたち臨んで賠償と除害に対して誠意を披歴したので、勘解治も誠心誠意で処理に当たった。

しかし、その後の交渉では科学調査から離れていろいろな名目の賠償額が出るに及び、製錬課長の龍野昌之をドイツに派遣してペテルゼンの特許権を取得した。ペテルゼン法で煙中の亜硫酸ガスを除去して実害がなくなったが、地方の農民たちは信じない中、東新地方の各町村は協議会を脱退した。

煙害が完全に除去された後も、不当な要求に対して断じて応じない勘解治の前に地方の人たちは手の下しようがなかった。

P094 別子銅山の鉾量調査

別子銅山の鉾脈は無尽蔵とされていたが、近代式採掘法だと今後20年以内の鉾量との調査結果を得た。住友も地方も銅山に代わるべき後栄策を考えなければならぬ時が訪れた。

P095 鉾山に代わるべき地方後栄の途・地方後栄の具体策

住友が元禄以来二百数十年、別子銅山を経営し、今日の住友を大きくした。銅山終末後、直ちに人々を見捨て、新居浜を引き揚げるのは道徳的に許されない。住友精神にも反する。故に住友は力の限り手段を尽くして地方後栄の方途を講ず

べきであると本社に賭けあった。

新居浜は栄えるにあたっての条件が欠けていた。後方地帯を持たない、交通の要衝でもない、立派な港もない、内海航路の寄港を見ることもないので、普通の商工業発展は望めなかった。本州とかけ離れていて、住友以外の工場誘致も難しい。住友が銅山に代わるべき事業を起すよりほかに方法はなかった。

第1. 築港埋立をすること。

第2. 機械工業を起すこと。

第3. 化学工場の拡張を図ること。

第4. 大都市計画を樹立すること。

第5. 市民の心を培い、共存共栄の思想を昂揚すること。

第6. 海面の埋立を行うこと。

#### P099 築港計画とその規模

昭和4年2月、新居浜地方の繁栄策の第一要件の岸壁を有する工場敷地造成として築港と浚渫土での埋立計画の原案は、本社や各方面の強い反対がある中、総理事・湯川寛吉が賛成して決裁された。

実行に移すために新居浜漁協の賛成が必要であったので、再三組合の代表と会談した。同年7月1日、新居浜町役場の階上で、国や地方自治体でなく住友自らが、地方発展のために築港・埋立の大計画を実施すると誠意をもって説明して、漁業代表者の賛成を得る。ここに新居浜築港が生まれることとなった。

#### P102 埋立の実行

星越選鉱場の尾鉱は索道で西の谷に運搬して捨てていたので、勘解治は、尾鉱での埋め立てを考えた。町田実に研究させた結果、沼地に流送して埋め立てても飲料水に害はなく、海中に捨て石で堰堤を設けて放流しても漁業に害がないことが判明した。星越山を切り取って星越から昭和橋まで高く盛って設けた道路を一つの堰堤として尾鉱を流送し、その上に赤土を置いて宅地の造成に成功した。

海中に捨て石で堰堤を作り尾鉱を流送し、海面の陸地化にも成功した。その後、住友機械、住友化学が工場の拡張を行うに当たってもこの埋立方法が役立った。

#### P104 後栄事業の一つとしての機械工場の拡張実施

強い反対のある中で、ドイツのデマグ社のラッピング・クレーンの特許権を取得してもらい住友機械を開設した。熱処理の機械、電気炉及び水銀整流機の特許権をスイスのBBC会社から買い受け、大工場を新設する計画も具体化しつつあった。しかし、新居浜中心主義の政策は本社から喜ばれることはなくなっていったので、立場は不利になっていった。

#### P105 女子の働く工場計画

西条と新居浜は共に繁栄を図るべきで、西条は住宅地として、工業用水・飲料水の供給地と考えた。新居浜に女子の働く工場を設け、西条と新居浜に電車を敷

設して交通の便を図り、西条に各種の文化施設を作ることを計画していた。しかし、実現を見なかった。

(電車の計画路線は、後に海岸道路の県道として開通する)

P106 都市計画の樹立・予土横断道路と金子川の変更計画

都市計画を樹立し郷土繁栄の途を講ずべきと考え、第一に星越から昭和橋までの道路を新設し、さらに港から金子村を貫通して新居浜駅に至る道路を計画したが、金子村の強力な反対で中止となった。計画を変更して昭和橋から新高橋までの八間幅の道路を計画した。新居浜町長・白石誉二郎に話すと賛成を得た、県は四間にせよといい、住友本社からも大いに非難された。町民の反対もあり六間幅の道路として昭和通りを建設した。

築港計画、都市計画などはすべて勘解治の不評の原因となり、計画半ばで大阪転勤が命じられた。中須賀に商業港、元須賀に漁港、御代島西に第二築港、黒島に第三築港を計画していた。

太平洋と瀬戸内海を結ぶ予土横断道路、常に氾濫する金子川を星越に向かって位置変更も考えていた。

P109 翁の思想の現れた昭和通り

勘解治が寝ても覚めても忘れなかったのは、共存共栄と、地方の後栄のことであった。

都市計画を立てて、星越から昭和橋まで、昭和橋から新高橋まで道路を建設した。昭和橋、申孝橋、共存橋、共栄橋、昭和通りと命名した。

P110 共存共栄の実を挙げよ

新居浜後栄の事業を起こす原動力は電力と考え、小女郎谷に発電所建設を計画したが、所有者の中の3人が反対して中止になった。

高藪に発電所を建設した際に、地権者の1人は時価の数十倍を主張した後に折れたが、他の地に隧道を完成させた。不理解な態度と、不当な要求は地方を頹廃させる原因を作ると勘解治は考えていた。

川口新田に社宅を建設する時も何かと要求されて対応に困窮した。住友は別子銅山が存続する限りにおいて事業を営むだろうが、地方の人々の協力が無いのでの事業は考えなくなるであろうか考え、地方の永遠の繁栄には共存共栄の考えを持たねばならないと述懐する。

P112 常務理事に栄進して大阪に

新居浜後栄策の結果を見届けたいと考えていたが、批判され、反対された結果、昭和6年2月に常務理事に栄進し、心ならずも新居浜を離れ大阪に転任した。

P113 永久に恩義を忘れない

最後は不遇だったとはいえ、常務理事まで栄進し、新居浜の後栄策も樹立し、一部は実行に移した。勘解治の力によることはもちろんであるが、彼にそれをな

させた多くの人がいた。昭和6年2月22日に瑞応寺で恩人の追悼法要をして新居浜を去る。その人たちの恩義に感謝し、彼らを決して忘れなかった。

P116 欧州視察の旅に

大阪勤務は閑職であった。1年後の昭和7年に欧州の視察を命じられる。新居浜の後栄策の都市計画をしていたので、各都市の状況に注目した。

帰国すると辞職勧告がなされ、波瀾の多い27年を過ごした住友を去った。

P120 苦難の遍歴・塾の計画挫折

昭和8年12月21日に住友を辞任する。東京蒲田での自彊舎開設も家族の反対で挫折する。

P121 日満亜麻会社に手を出した・三石の大平鉱山に・大日本航空輸送株式会社に

日満亜麻会社、大平鉱山の次に、大日本航空輸送株式会社に就任した。民間会社であったが口を挟む軍部と対立してさつさと辞任する。

P123 いよいよ世捨て人となるか・三石の山に石を相手として・いつまでも苦しめられて

住友辞任後は苦難と失敗の連続の8年間だった。失意の中に久保無二雄に教を乞うところ叱られた。修養の足らざるを反省する。

昭和16年に再び三石で有限会社五反田クレーを起こすが、経営難が続く。労働争議が起こり、病に倒れる。別子の労働争議の延長が20年後に及ぶとは夢だにできなかった。しかし、世の中を恨まなかった。

P127 懐かしい新居浜を訪問・旧知の人々との歓談

昭和28年5月3日、川東地区合併記念式に来賓として新居浜市から招かれる。新居浜市内を視察巡回した後、旧知の人たちに逢い新居浜に帰ってくることを勧められる。

P128 歓びに満ちて新居浜に帰居

最後の余命を有効にささげたいと考えるようになった。新居浜の人との交流から、昭和28年8月31日に三石から新居浜に引っ越してきた。

P110 人を恨まず、求めず、ただ陰徳を

苦難の道を行くことは更に心を磨くと修養を重ね、古希を超えても陰徳を積むことを怠らない。

P112 翁と習字

学生時代から能筆家であった。住友入社後の明治42年ころに岐阜の山本<sup>けいざん</sup>竟山に弟子入りする。修養として毎日習字をする。

号の影春は明治41年、詩人の水野風外が選名したものである。

P133 翁と日高直次・鈴木馬左也・中田錦吉・久保無二雄・真崎大将・花田仲之助

一省略一

P138 不朽の生命を留める翁

何人も認めている地方繁栄の貢献者である鷲尾勘解治を、郷土史家として後世

に伝えたいとの願いから必然的に筆をとった合田正良の、昭和29年6月1日付けの後書き。

P143 逸話集

—省略—

P155 先輩知友の書簡

—省略—

## 6. おわりに

「鷺尾勘解治翁」は今では希少な本で読む機会も少ないと思われる。本文のボリュームも少なかったため、全見出しを簡潔にまとめ、勘解治の経歴としてどんな事が書かれているかが分かるようにした。

鷺尾勘解治が、住友本社の理事として新居浜時代の延長線上で仕事をしていたら、伝記の内容も豊富で数多く書かれたことと思う。「鷺尾勘解治翁」の本文の中には簡略に記述した項目を感じるが、新居浜市の恩人として市民からまとめられた経緯からして、勘解治の人柄がうかがえる。

西洋で百年かかった産業革命を日本が20年～30年で成し遂げたが、3世代かかるところを1世代での取り入れで見落とした社会生活の規範意識を、勘解治は自彊舎、改善会の運動で埋めようとしたようにも見える。自分の家の床の間を飾るだけでなく、家の前の道路を清掃し、町全体を清潔に保持することを目指したかのようなのである。資本主義経済の発展の中で、原料供給地の近未来の危うさを憂い、住友家の隆盛の歴史への報恩として「地方後策」を立てた経営人が新居浜にいたことは、新居浜にとって幸運であった。

勘解治が考えたことで、記載されていないことを述べる。

01. 道路は港を起点にして放射状に建設する。
02. 中央公園を一宮神社と宗像神社を中心に相当大きなものをつくる。
03. 町の所々に公園をつくる。
04. 複合的な市民会館とか市民センターも必要である。
05. 星越山の山頂に接待館を建設する。
06. 教育は施設としての学校のほかに道場のようなものを建設する。
07. 下水道、し尿処理場の建設が必要である。昭和通りにも下水道を考えた。
08. 物価高対策として、民需品の生産をする。
09. 低地の金子新田地区を移転する。
10. 東新地帯の各町村が合併して大新居浜市を建設する。
11. 町の美観として中央交差点、星越山に尖塔を建てる。
12. 磯浦から星越山まで運河を掘る。
13. 星越山山麓に電子工作工場を建設する。